

各県立学校長 殿

体育保健課長

熱中症事故の防止について（通知）

上記のことについては、令和3年5月24日付け教委学安第390号及び令和3年6月11日付け教委学安第658号で通知しているところですが、本年度に入り、本県において WBGT 値が28℃以下でありながら熱中症事案が9件発生しており、内6件は救急搬送されている状況です。今後、梅雨明けとともに暑熱環境の悪化が予想される中、特に体育活動及び運動部活動における熱中症事故が懸念されます。

については、特に下記の事項に十分留意するよう、改めて指導願います。

記

《体育活動及び運動部活動》

環境省の熱中症予防情報サイト（別添資料1参照）における暑さ指数（WBGT）の参考値または、WBGT 計による実測値を活用し、運動に関する指針（別添資料2参照）に基づき、活動を行うこと。  
特に暑さ指数（WBGT）28℃以上では、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動を中止。  
暑さ指数（WBGT）31℃以上では、運動を中止すること。

【具体的な留意事項】

- 1 熱中症による死亡事故は、ほとんどが体育・スポーツ活動によるものであり、体育・スポーツ活動によって発生する熱中症は、それほど高くない気温（25～28℃）でも湿度が高い場合には発生することを踏まえ、WBGT 値が28℃以下であっても、生徒の体調等を考慮した上で、活動の適否を判断すること。
- 2 教職員は活動前に必ず生徒の健康観察を行い、体調不良と判断される場合は活動をさせないこと。また、生徒自身の体調管理（睡眠時間、食事、普段と違う体調異変への対応等）を一層徹底させる必要があることを周知・指導すること。
- 3 教職員は生徒が体調に異変を感じたときに申し出やすい関係の構築に努めること。また、生徒から申し出があった際には、速やかに見学や休憩をさせるなど、適切な対応を行うこと。
- 4 熱中症事故発生の要因として、「これまで同様の環境の中で熱中症による事故が発生していない」、「生徒自身が活動したいと言っている」、「大会前なのでやむを得ず活動した」等があげられていることから、危険が予測される場合は躊躇せず活動を中止すること。
- 5 「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」（令和3年6月11日教委学安第658号）を再確認し、具体的な熱中症の予防措置や熱中症発生時の対応について組織的な取組を講じること。

大分県教育庁体育保健課  
学校体育班 担当：吉野・塚本  
TEL 097-506-5639  
FAX 097-506-1812